

(様式3)

自己評価結果票 (東ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「尊厳のある生活」、「見守る介護」、「家庭的な環境」、「笑顔のあふれるホームに」の4項目を重要理念として提唱している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>開設以来、毎朝の朝礼で理念の唱和を行っている。又、会議でも職員の理念についての取り組み方や実践を報告して前向きに取り組んでいる。管理者は理念が職員の動きやケアの中に常に在るのが、見守っている。</p>	<p>管理者が一番望んでいることは、理念を共有し、全スタッフに浸透させることである。今後も折に触れ、メッセージを発信していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は施設案内のパンフレットにも載せている。入居時やケアプランの説明時等、折に触れ、その人らしい生活ができるよう取り組んでいることを家族に伝えている。家族、民生委員、公民館に広報誌「くすの木DAYS」を配布している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日の散歩、歩いていけるスーパーや美容院の利用、喫茶外出をすることで、挨拶や会話だけでなく果物等をいただいたりする機会が増えている。又、週一回、生ゴミ収集日の後片付けを行うなど、日常的な付き合いが出来ている。駐車場には掲示板を掲げ、ボランティアや行事の案内をしている</p>	<p>今後も行事やボランティア等取り組んでいきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>公民館のふれあい喫茶、自治会の秋祭りの見学、盆踊りへの参加、輪投げ大会への参加等、地域の方々と交流する機会を持っている。</p>	<p>近隣の幼稚園等と交流できる機会を作りたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	本年度は4名が、認知症サポーター キャラバンメイト養成講座を受講し、地域の人々に認知症の方に対する理解とサポートをして頂けるような働きかけをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の第三者評価後も反省点や今後の取り組み方等、意義を含めて会議で議論し、今後の指針として取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2、3ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの現状を報告し、話し合いを行っている。情報交換をしたり、第三者的な意見を頂くことが多い。又、会議へはその都度利用者の出席を促し、自己紹介、生い立ちなどを話して頂いている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口へは広報誌を持参したり、問い合わせをすることはあるが、頻繁な往来はない。地域包括センターの職員が運営推進会議に参加して頂けるようになり、連携は取りやすくなった。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年同様、現在も活用する必要はないが、研修で学んだ職員は会議で報告し、回覧等で理解するよう努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やメディア等で学び、その報告は随時行っている。又、スタッフの人員は常に十分確保され、ゆとりのある体制が整っているため、虐待はない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>交流会は年数回実施しているが、今後とも定期的に実施し、意見の反映に努めたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の配置異動はほとんどないが、離職によりやむを得ず交代する場合がある。残ったスタッフはより深く利用者とかかわり、精神的な安定が得られるよう配慮している。</p>	<p>新しく入社したスタッフに対しては、現在のスタッフが、自分たちのチームで精一杯力を発揮してもらえる様、環境作りに努めている。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症介護実践者研修、グループホーム連絡会の研修、疾病別研修会等に参加。スタッフの学びたいという意欲もある。折に触れて外部の勉強会の案内をしているが、計画的に研修に参加できているとはいえない。</p>	<p>毎月の全体会議において、外部で受けた研修を報告する機会を作ったり、事業所内部でも勉強会を設けたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所に実習に行かせてもらったり、グループホーム連絡会等で同業者と話をする機会はあるが、十分に交流できているとは言えない。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は常にスタッフの悩み、不満、意見等に耳を傾け、一緒に解決していこうとする姿勢を持ち続けている。スタッフの悩み、仕事への意気込みをレポート提出という形でくみ取っている。スタッフ自身も又、自己を見つめる機会にもなり、他力だけでなく自力でも立ち上げられることに繋がる。</p>	<p>今後も、レポートの提出を継続していきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>折に触れて、話し合いの場を持ち、問題点があれば改善の努力をしている。又、ケアプランに沿った介護ができていないのか、独りよがりではないのかと、常に気を配り、問題点をお互いに出し合い、討論する姿勢を持っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族から相談を受けた後に、必ず本人と面談する機会を設けている。本人が困っていること、不安に思っていること等、本人の気持ちを聞き取っている。本人の置かれている状況、身体面、精神面に考慮し、受け入れを検討している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の思いや不安等をしっかり聞き取り受け止めるよう努めている。本人とご家族との思いの違い等も受け止め、信頼関係が築けるよう努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときに本人と家族の状況を把握し、今どんな支援が必要かという視点で、当グループホームでの生活が可能かの見極めをしている。利用不可の場合は他のサービス利用を紹介するなどの対応をしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、本人がグループホームの雰囲気に慣れて頂けるよう、またスタッフも顔見知りになれるように、家族同行で見学に来て頂いている。又、見学時に、他の入居者と一緒に昼食を食べていただいたりして馴染めるような工夫をすることもある。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>戦時中の話や利用者各々のこれまでの豊かな経験を学び、共に一緒に生活することで、一つの家庭のように支え合い助け合う関係を築いている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族には利用者の健康面精神面の状況をその都度報告し、把握して頂くよう努めている。利用者の安心した生活には家族の協力がなくてはならないことを折に触れて伝え、三位一体の取り組みを心がけている。一年に一回、家族、利用者、スタッフとのバス旅行を計画し関わる時間を増やし、良い関係が築けるよう努めている。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には日々の様子を伝え、家族との外出の機会が少ない方には家族にも協力を求め、外出の機会を増やせるよう支援する等、疎遠なご家族にも諦めずに働きかけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	従姉妹との外出を楽しまれている方、女学校時代からの友達と外出を楽しまれている方がいらっしゃる。神社や公園への散歩にはよく出かけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日課となっている散歩では、メンバーもほぼ同じであるため、誘い合う姿も見られる。また、「買い物&調理」も実施し、献立を考え相談しながら購入する面もある。食事の席に遅れてくる人への気遣い、体調不良の人に対する気遣いが見られる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院となった利用者に対してはスタッフが出来る限り面会に行っている。退居され、他の施設に移られた方に対しても状況を伺ったり、できるだけ面会に行き、密な関係を継続している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの気付き等を記録し、1ヶ月ごとにモニタリングを実施し、問題があればカンファレンスを実施し、介護計画の見直しに活かしている。		センター方式を取り入れ、一人ひとりの状態を把握し、観察をしている。その都度問題点や目標を挙げ、介護計画に繋げるようにしたい
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	単独のグループホームなので、その特性を活かし、きめ細やかで臨機応変な対応ができるように努めている。利用者の暮らしを馴染みのスタッフが継続的に支えている。		
4.より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域、近郊のボランティアの方との交流など気軽に声をかけて頂いたり、こちらから声をかけさせて頂いたり、日々交流が深まっている。又、元家族の申し入れにより、月1回の音楽療法を実施している。消防避難訓練時には消防署員に指導をして頂いている。		幼稚園児や小学生との交流が図れていない為、今後の課題として取り組みたい。市政出前講座の利用も検討したい。
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーと話す機会はあるが、他のサービスを利用するには至っていない。利用者の自費負担を伴うので他のサービス利用を勧めてはいない。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員には運営推進会議のメンバーになって頂いて情報交換を行ったり、広報誌を配布しているが協働とまでは至らない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の協力病院からの往診を受けている方や、かかりつけの主治医を持っている方がいる。家族の協力を得て受診しており、その際には必要な情報提供書を作成している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援できていない。認知症専門機関への受診希望者が多いが、主治医（内科医）が特に詳しく認知症について見識を深めているとは思えず、今後の課題である。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が不在であるため、スタッフが健康状態の把握に努めている。健康状態に不安がある場合は家族に伝え、主治医や往診時に相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院治療となるまでの過程を医療機関へ情報提供している。又、できる限り面会に行き、病院側や家族との相談を行い、退院に向けての支援に努めている。		医療機関との連携を蜜に行い利用者や家族が安心して暮らせるよう体制を整えたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合はケアの方針、取り組み等を家族と話し合い、意向を確認し、共有するようにしている。問題等を家族に報告し、ケアに努めている。		重度化した場合の対応等、できる限り早い段階で家族と話し合いを実施し、家族の希望を取り入れながら検討していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期までの対応はできていない。できる事、できない事の見極めは、各々のケースにつき検討している。		重度化した場合の対応等、できる限り早い段階で家族と話し合いを実施し、家族の希望を取り入れながら検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とスタッフが一緒に調理し、盛り付け、配膳、食事、後片付けをすることは毎日の日課になっている。月に何度かスタッフと利用者が買出しに出かけ献立から調理まで一緒に行う「共同調理」を実践している。		
55	利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの嗜好を事前に調査し、健康面に配慮しながら食事を楽しんで頂けるよう努めている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の有無を記録し、自然な排泄ができるよう努めている。下剤・パット等は必要に応じて検討している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の希望を取り入れながら気持ちよく入浴して頂けるよう努めている。入浴拒否のある場合はタイミングや時間帯を見計らっての声かけを行っている。必要に応じ足浴や清拭を行っている。		在宅での生活では夜に入浴する習慣がある。希望の方に夜間入浴も検討していきたい。入浴拒否の方には家族の声かけ、外出先のお風呂などを提案し、入浴の回数の確保に取り組みたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活や状態に応じて休息を促し、声かけを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、掃除等、一人ひとりに合った役割を設けている。現存機能を活かし、今できている事が今後も維持できるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常のお金は事務所に保管しているが、小額を手元に置いて安心して頂き、自由に使えるようにしている。購入物を選んで頂き、できる方には支払いをして頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のように散歩をしている。買い物や外食等、希望に沿って外出できるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ショッピングモールや温泉施設など、車での遠出も気分転換になっている。家族の協力も多く得られている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話機はいつでも使用可能であり、希望に応じ連絡できるようにしている。時節ごとに葉書を書いて頂いている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問日や時間の制限はなく、気軽に来ていただいている。訪問時は、お茶を提供し、居室でゆっくり会話されたり、リビングで他の入居者と談話されたり、自由に心地よく過ごして頂けるよう配慮している。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット間での施設はなく、自由に交流している。身体拘束をしないケアを実践している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉は、家族の希望と推進委員会の意見により施錠している。居室や玄関に鍵は掛けておらず、常にスタッフが目配り、見守りを心がけている。ドアチャイムも活用して、ドアの開閉の把握に努めている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	思い思いに過ごされている利用者のプライバシーに配慮しつつ、所在確認や見守りによって安全に行動されているか、様子を把握できるようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品は必要に応じて提供し、刃物等を使用されるときは見守りをおこなっている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある利用者には昼夜目配りを心がけている。行方不明にならないように常に所在確認し、スタッフ間の連絡を取っている。ヒヤリハットの提出により危険度の把握や事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成している。応急手当や対応について会議の折に話し合いの機会を設けている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練、年2回の設備点検、又その点検時にスタッフの通報訓練を行っている。マニュアル表も作成している。		避難訓練の回数を増やすと共に地域の人々の協力が得られるよう積極的に声かけをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>介護計画説明時や面会に来られた時等、随時一人ひとりのリスクについて対応に取り組んでいる状況を説明し、家族よりの意見も頂き、相互に理解、納得ができるように話し合っている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>バイタルチェック表、業務日誌中に体調面の変化をチェックできる欄を設け、スタッフが速やかに情報を共有できるようにしている。常時体調の観察を行い、異変に気付いた時は家族や主治医に連絡し対応している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の目的、副作用、用法や用量については、医師、家族、処方箋などにより確認している。誤訳を防ぐために3回スタッフによりチェックできる体制を作っている。又、症状の変化についてはスタッフ全員が観察、確認を行っている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎日ラジオ体操や下肢の体操を行い、腹部のマッサージなども取り入れている。毎回の食事には繊維質の多い野菜等を多く使用している。水分量をチェックし、ティータイムを1日2回設け、無理なく水分補給ができるようにしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>起床時、自主的に清潔保持できない利用者に対して、歯磨きなどの声かけを行っている。毎食後の手入れは行っていない。</p>	<p>少なくとも朝夕の口腔内の清潔保持は徹底するよう努めたい。又、昼食後のうがいなどを取り入れていきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者全員の食事量、水分量、体重の増減等記録している。栄養のバランスを考えた献立を工夫し、一人ひとりに応じた食事量を提供している。ティータイム、入浴後、レクリエーション後等に水分が摂取できるように工夫している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアルを作成し、これに基づき対応予防策をスタッフ全員が熟知し、実行している。うがい、手洗いを徹底している。消毒薬を備え、毎日共有域の消毒をしている。インフルエンザの予防接種は入居者全員が受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理器具などの洗浄、消毒を毎日行っている。2日ごとに必要なだけの食材を購入し、献立を工夫し、新鮮で安全な食材を調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには植栽が施され、玄関先には常に多様な鉢を置き、気持ちが和むようにしている。駐車場のフェンスには掲示板を掛け、行事の案内や様子を報告し、ご近所の方にも親しみを持って頂けるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、利用者と共に作成した作品を取り入れ、月毎にリビングのレイアウトを変えている。又、音楽なども適度に流し、心地よい暮らしができるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時等は、利用者の相性等を考慮した座席にしているが、その他は気のあった者同士自由にテレビを見たり、談笑できるようにしている。又、誰でも利用できるソファを設置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より思い出の品等を持って来て頂いている。時節ごとに各自の手作りの作品や採取した草花等を思い思いの場所に飾って、居心地の良い居室にしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時は大きく窓を開け、換気をしている。入居者の状況により衣服やシーツ類をこまめに替え、臭いが気にならないようにしている。空調は入居者の状況により調整し、リビングには加湿器を設置し、乾燥を防いでいる。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、廊下、トイレ、浴室、玄関等すべてに手すりを設置している。トイレは3箇所設置し、各居室から遠くない位置にある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋に表札を掲げ、トイレのドアにはドアプレートや表示等で誰でもにわかりやすくしている。リビングには大きな日めくりを設置し、季節に合った作品を掲示し、場所、日にち、季節の混乱を防いでいる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の内外に季節の植物を植え、庭には野菜を育てる場所がある。誰でも花の水遣り、草引き、散策、日向ぼっこが楽しめるようにしている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目 (東ユニット)		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

管理者でもあるオーナーが、ホームに常在しており、入居前の段階から、利用者・家族と関わりを持ち、常に家族とのコミュニケーションが取れている。利用者も困り事を気軽にオーナーに聞いてもらえるという安心感がある。小さい単位のグループホームならではの臨機応変なケアが繰り広げられている。

昨年度より全ての入居者についてセンター方式を取り入れ、スタッフ全員が入居者と深く関わりを持ち、良いケアを目指している。

又、理念でも掲げている「家庭的な環境作り」を毎日のケアに取り組み、日常生活のあらゆるシーンで利用者同士がお互いを思いやり、譲り合う姿が見られるようになった。体操や毎日の散歩、「買い物&調理」と称して、昨年度より実施している共同調理(スタッフと数人の入居者が買い物から始め、献立作成、調理までを一連の流れとして、一緒に行う取り組み)も継続して行っている。このようなたゆみのない取り組みにより、入居者のADL低下防止と維持に努めている。

今後も家族との交流をさらに進め、地域社会での理解を深めるべく積極的な発信に取り組みたい。